

2025（令和7）年度 教養学部学校教育学科 学校推薦型選抜（一般） 講評

○課題文について

養老孟司『ものがわかるということ』（2023年 祥伝社）より一部を改変して用いた。

○設問一 傍線部アで、筆者は、「現実ではない」と述べていますが、それは、どういうことですか。課題文に即して、二〇〇字以内で説明しなさい。

【出題意図と評価のポイント】

課題文を正確に読み取り、それに基づいて文章を構成する力が備わっているかを見る設問である。「社会的・経済的価値のある・なし」「自然そのものに価値はない」「現実でない自然は、行動に影響を与えない」などのキーワードや言い回しを適切に組合せ、論理的な記述ができている解答に高得点を与えた。

【講評】

「価値がある・ない」と「価値がわからない」を混同しているなど、設問に的確に答えることができている解答は必ずしも多くなかった。また課題文の趣旨は理解できていても、適切な事例を探すのが難しかったようである。他方で「不動産業者・お役人」と「木・森・川」の対比が適切に述べられているなど、文章力や論理展開に弱さがあっても、課題文の趣旨に多少なりとも親和性のある場面に言及した解答を相対的に高く評価した。

○設問二 傍線部イの『「ああすれば、こうなる」ではなく、あくまで『手入れ』です。』とはどのようなことか、課題文の趣旨を踏まえながら、あなたの体験や見聞を交えて六〇〇字以内で論じなさい。

【出題意図と評価のポイント】

課題文の趣旨を誤解なく捉えたうえで、その趣旨に合致する適切な「体験や見聞」を選び、論理的かつ説得的に論述できているかを見る設問である。筆者の論点が把握され説明されている解答や、自分の体験が筆者の論点に合わせて語られている解答に高得点を与えた。

【講評】

「ああすればこうなる」と「手入れ」、「シミュレーションができない」と「どうなるのかわからない」、「合理性」と「不合理性」などの対比が適切に述べられていない解答が散見された。「ああすればこうなるが前提の都会では知ることが難しくなる」ということを理解し、自分の体験と繋げることができている解答を相対的に高く評価した。